



語り合おう! 精華町の未来デザイン

せいかカフェ・ラボ



~まちづくり提言書~

令和4年5月

精華町

目次

1. 実施要領.....	1
2. まちづくり提言書.....	3
■ テーマ別	
A 学研都市建設グループ.....	3
B 学研都市未来グループ.....	4
C 観光・産業グループ.....	5
D 健康・福祉・生涯学習①グループ.....	6
E 健康・福祉・生涯学習②グループ.....	7
F 子育て・教育①グループ.....	8
G 子育て・教育②グループ.....	9
H 安全・安心・コミュニティグループ.....	10
■ 地域別	
I 精北小学校区グループ.....	11
J 川西小学校区グループ.....	12
K 精華台小学校区グループ.....	13
L 東光小学校区①グループ.....	14
M 東光小学校区②グループ.....	15
N 山田荘小学校区グループ.....	16

【提言書の内容について】

提言書の内容は住民の皆さんが作成したものを基本に、事務局で体裁を調整しています。

1. はじめに

(1) 本提言書について

精華町では、令和3~4年度にかけて「精華町総合計画」の改定に取り組んでいます。

その一環で、これからの精華町のまちづくりについて住民の皆様の対話・意見交換の場として「語り合おう！精華町の未来デザイン せいかカフェ・ラボ」（以下「せいかカフェ・ラボ」という）を開催しました。

「せいかカフェ・ラボ」は、子育て・福祉・教育・環境といった分野ごとに語り合う「テーマ別」、町内の小学校区ごとに語り合う「地域別」の2つのグループに分かれて、ワークショップ形式で各4回ずつ開催しました。（4回目は合同で開催）

本提言書は「せいかカフェ・ラボ」で半年にわたって意見交換を重ねた、「10年後にめざすまちの姿」「めざす地域の姿」や「そのために必要な取り組み」についてとりまとめたものです。

(2) 実施経過とプログラム

① 参加の募集

次の方法で募集し、テーマ別56名、地域別44名、合計100名の参加申し込みがありました。

- ・ 住民意識調査の調査票に本ワークショップの案内を同封し募集
- ・ 広報誌「華創」、町ホームページでの公募
- ・ 各種団体、自治会の方から参加募集

② グループについて

■ テーマ別

「テーマ別」は下記6つの分野に分かれて話し合っていました。

テーマ	キーワード
学研都市建設グループ	「学研都市精華町」の発展 ・ 研究所・産業施設の集積、リニア中央新幹線・京阪奈新線・公共交通、自然、まちなみ、景観、環境保全、住環境 など
観光・産業グループ	地域資源を活かした魅力・活力のあるまち ・ まちの歴史、観光魅力、産業活性化、農業、就労環境、にぎわい など
健康・福祉・生涯学習グループ	住民の健康と文化・スポーツ活動 ・ 健康、医療、保健、福祉、支え合い、文化・芸術、スポーツ、生きがい など
子育て・教育グループ	子どもたちの健やかな成長 ・ 出産、子育て、学校教育、青少年、親育ち など
安全・安心・コミュニティグループ	安心で生き生きとしたコミュニティ ・ ご近所、自治会、地域行事、協働、防犯・防災 など
学研都市未来グループ	学研都市精華町の未来・夢 ・ 「文化・学術・研究」、科学のまちの子どもたち、近未来など

■ 地域別

- ・ 「地域別」は参加者のお住まいの小学校区ごとにグループに分かれて話し合っていました。
精北小学校区グループ/川西小学校区グループ/精華台小学校区グループ/東光小学校区グループ
山田荘小学校区グループ

③ プログラムの概要

テーマ別、地域別ごとに各3回実施し、4回目は合同で実施しました。

	せいかカフェ・ラボ (テーマ別)	せいかカフェ・ラボ (地域別)
第1回	<p><u>「精華町ってどんなまち？」</u></p> <p>日 時：令和3年11月6日(土) 13:30~16:00</p> <p>場 所：精華町役場交流ホール</p> <p>出席者：48名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精華町の自慢や魅力、将来に残したいこと、これから高めていきたいことなどをワールドカフェ形式で語り合いました。 	<p><u>「精華町ってどんなまち？」</u></p> <p>日 時：令和3年11月13日(土) 13:30~16:00</p> <p>場 所：精華町役場交流ホール</p> <p>出席者：36名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住んでいる小学校区の「自慢できるところ」「気になるところ」などをグループで語り合いました。 
第2回	<p><u>「めざすまちの姿」を考えよう！</u></p> <p>日 時：令和3年12月18日(土) 13:30~16:00</p> <p>場 所：精華町役場交流ホール</p> <p>出席者：39名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマごとに分かれて、10年後の「めざすまちの姿」を語っていただきました。 	<p><u>まちあるきで「我がまち」再発見</u></p> <p>日 時：令和3年12月11日(土) 13:30~16:00</p> <p>場 所：精華町役場交流ホール</p> <p>出席者：31名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住んでいる小学校区ごとにまちあるきをし、良いところや気づいたところを共有しました。 
第3回	<p><u>精華の未来に向けた取り組みを考えよう！</u></p> <p>日 時：令和4年3月26日(土) 13:30~16:00</p> <p>場 所：けいはんなプラザ交流棟3階大会議室「ナイル」</p> <p>出席者：33名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「めざすまちの姿」と重点的な取り組み3つをグループで検討し、提言書を取りまとめました。 	<p><u>「我がまち」の未来デザインめざす地域の姿と実現に向けた取り組みを考えよう</u></p> <p>日 時：令和4年4月23日(土) 13:30~16:00</p> <p>場 所：けいはんなプラザ交流棟3階大会議室「ナイル」</p> <p>出席者：27名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「めざす地域の姿」と重点的な取り組み3つをグループで検討し、提言書を取りまとめました。
第4回	<p><u>せいかまちづくりフォーラム ～未来への一歩！～</u></p> <p>日 時：令和4年5月21日(土) 13:00~16:30</p> <p>場 所：けいはんなオープンイノベーションセンター (KICK) ホール</p> <p>出席者：59名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「まちづくり提言書」をテーマ別8グループ、地域別6グループの「まちづくり提言書」の発表会と意見交換会を開催しました。また、「まちづくり提言書」を受けて、精華町の理事者・部長級職員からコメントをさせていただき、また、京都府立大学の川勝先生、上杉先生からは、応援メッセージをいただきました。 	

2. まちづくり提言書

テーマ別
グループ名

A 学研都市建設グループ

めざす
まちの姿

次世代へ引き継げる景観保全がされたまち（メンテナンス）

世界に誇れる学研都市の景観が、まちづくりの適切なメンテナンスがなされることで次世代に引き継がれている。

けいはんな新線を核とした面的発展を目指した交通整備

京阪奈新線が京都駅から夢洲駅からまで一本の線につながり、学研都市の開発が促進され、学研都市がより一層発展している。

1. 重点的な取り組み

- **京阪奈新線の延伸の実現の要望(企業・住民一体で)**
進出している企業や通勤している社員も昼間人口の代表として、そして、住民も一緒に、何かの機会に京阪奈新線延伸をもっと強く要望する。
- **新たな公共交通の整備**
様々な交通システムを組み合わせながら、京阪奈新線、あるいは生駒の方に新たな線を作るなどで、買い物難民などの問題を解決する。
- **環境維持費用の捻出のための情報発信**
有数のIT企業を利用し、せいか祭りなども活かして、精華町はいいな、働きたいな、学びたいな、住みたいなと思ってもらえるように情報発信に取り組む。

2. 取り組みのアイデア

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 既進出企業の考え方の変化。要望の変化を組織的にくみ上げ、まとめる。・ 交通インフラ（京阪奈新線）周知→住民のメリットを感じていない。町外の方が気づいていない。・ 京阪奈新線。住民、企業一体で要望する。・ 景観：府管理部分と町管理部分、民間（企業、個人）、自然景観（メンテナンス）、農地。・ KICK等の施設を活用して、昼間人口増につながる学校・専門学校等の誘致。・ 景観保全（メンテナンス）。・ 都市景観100選。・ 日時計（ギネスに登録）。・ 精華町のシンボルの保全は？ | <ul style="list-style-type: none">・ 情報発信オンリーワン。企業から（IT企業）、住民から、学校から（大学）。・ 街路樹のメンテナンス。費用の増額、捻出（ex、クラウドファンディング）企業、ふるさと納税等。・ 大阪・京都・奈良へのアピール（働きたい、学びたい、住んでみたい）。せいか祭り。・ 鉄道・バス・オンデマンド交通を組み合わせた（MaaS）的交通システムを計画・導入し、住民と昼間人口両方の交通要求を満たす。・ 「交通」住み続けられる町⇒公共交通網（安、便利、ルート、時刻）⇒シェアリング（カー、バイク）。 |
|--|---|

めざす
まちの姿

子供から大人までみんなが夢を持てるまち

住民・ボランティア団体・役場・学校・企業等の多様な主体が垣根を越えてしっかりとコミュニケーションをとることができ、困りごとを抱えている方たちを誰一人取り残すことなくサポートしている。

科学と伝統で進化を続け、他の地域の人々が来たくなるまち

昔からのお祭りなどの伝統を継承しつつ、日本のシリコンバレーとしてのポテンシャルを活かして学研都市として進化を続けることで、働きたい、住みたいまちとなっている。

1. 重点的な取り組み

- **町の発展のために住民・行政・企業の連携が必要。**
個人だけでは発展しないので、交流のためのプラットフォームと世話役が必要。
- **世代間で楽しめるような精華町の魅力を発掘し、発信していくような場を持続可能な形で設定する。**
精華町検定の作成、精華町 RTA（ゲームイベント）の活用、精華町データベースの作成などを行い、また、情報発信の場とコーディネーターの設置を進める。
- **若者の意見を取り入れて、高齢者支援を行う。**
高齢者サポートアプリ開発、ボランティア活動、そして、中高生の自主的活動を通じて、若者と高齢者が交流し、お互いを知ることになり、次の世代につなげていく。

2. 取り組みのアイデア

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 町の特徴を活かしたベンチャー企業の誘致（教育支援アプリと高齢者支援アプリ）。 ・ 研究者と学生・児童の交流の場を作る。 ・ 次世代の為の町。幼少時の体験型教育と、中高生の町づくり参加。 ・ サイエンスシティーを目指して住みよい町づくり。デジタル化の促進。 ・ 「科学」「伝統」「垣根を取り払う」3つのキーワードに共通する言葉は”情報発信”と考えます。まず、情報を発信し、住民が自由に知る仕組みを作る。 ・ 物作り、プログラムの次に来る科学を探す。研究者・住民の相互交流により。 ・ 都市企業と子どもたちの交流を深めていく（サイクル化）。ワークショップ・サイエンス体験・企業見学・職場体験・授業実施。 ・ 住民・行政・企業の連携。 ・ 住民・行政・企業交流のプラットフォーム。 ・ 交流の世話役（ファシリテーター）を設置。 ・ 子どもから大人まで各世代間交流で、夢のある町づくり（対面とオンライン）。 ・ 住民・各団体が予約なしで自由にミーティングでき、情報を発信・受信できる場の設定。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学会・国際会議場等の受け入れ体制整備。交通アクセス・宿泊・観光・地元の体験等。 ・ 精華町のシンボルを大事にする。例、花⇒バラ。バラ苗の配布等。 ・ 町民による「精華町 RTA」を発信する。 ・ 精華町データベースを作る。精華町検定をする。精華町ガイドブックを作る。 ・ 幅広い世代のいるチームが有利になるゲームのイベントを行う。例、なぞ解きゲーム。 ・ 一般人、商工業、学術研究…単なる交流ではなく、1回で終わらない、毎回宿題を持ち帰り、ガチバトルも有りの熱い話の場を作る。 ・ 一部の人が知らない（いごもり祭等）、町内の文化や財産を広く知れる場（現実かオンラインか）を作る。 ・ 文化や文化財に関心を深め、町にその拠点である資料館を作り、活動を広げていく取り組みを進める。 ・ 精華町で古くから続けられている行事に関心を持ってもらえる取り組みを進める。 ・ 各団体、組織を繋ぎ、サポートするコーディネーターの設置。 |
|---|--|

めざす
まちの姿

子どもからお年寄りまで3世代が一緒に安心して過ごせるまち
遊び・働く・学び・スポーツ・伝統、活躍できる場所があるまち
産業・観光・福祉・子育て等全ての分野でつながり、協働のあるまち

遊び・学び・スポーツ・仕事・伝統・活躍できる場所があり、産業・観光・福祉・子育てなど全ての分野が繋がるとともに、多様な主体の協働の取り組みによって、今よりも住みやすいまちとなっている。

1. 重点的な取り組み

● 町民が集う場作り。カフェラボ 100 軒。

縦のつながりは多いが、横のつながりが少ないので、同じ特技を持っている人たちなど、みんなが集まれる場所を各地域で作る。

● 町の観光・産業の魅力を発信するしくみ作り。ヒト・SNS 活用。

町をより知ってもらうために、まちあるきをやってもらえるような情報発信のしくみ作り。

● 町内観光施設を訪れる観光客を誘引するしくみ作り。道の駅？！

町内の方も外の方も町内観光施設を目的に集まる場を提供する。

2. 取り組みのアイデア

- ・ 高齢者の人が集まる健康維持イベント開催。体動かす系？体操とか？
- ・ ウォーキング（ミステリーなどストーリー作り）ツアーイベント開催。
- ・ つながる「ヨコ」…タテの繋がりはあるが、ヨコの繋がりが無い。ヨコの繋がりを作る。
- ・ 町内での施設も、繋がれる場所。
- ・ 子どもを中心に家族連れで、精華町のまち・里山等を歩くツアーを開催してあげる。まずは、「まち歩き」を！
- ・ つながり・協働・連携できる仕組みを作る（マッチングコーディネーター）行政ができること、地域ができること、個人ができること。
- ・ 町内小学生・中学生の社会授業で、町の観光アピールを考えてもらう。郷土愛を育む・斬新な発想があれば、ピックアップ。
- ・ 三世代が安心して生活できることと、遊び・働く・学び・スポーツ・伝統他活動できる町づくりが目標です。
- ・ 現在まちにある資源（宝）を、再確認する（これまでの伝統を大切にしつつ、今の時代にあった取り組みを考える）。

- ・ 3世代が一緒に安心して過ごせる町の現実に必要なことを具体的にイメージする。
- ・ この町を知ってもらうことでは、SNSでの情報発信について、常時新しい情報を提供することが大事。
- ・ 目指すまちの姿（ビジョン）の発信。（キャッチフレーズ）まずは精華町として目指していることを知ってもらう。
- ・ 他市町村から町を訪れた人が、「いいね！」と思える「おいしいもの」（スイーツなど含む）づくりと提供。
- ・ 精華町のおいしい野菜・果物を知ってもらえる様に発信。町民がインスタ・ツイッターをする。
- ・ 私案として、けいはんな公園、源氏の湯（今年オープン）、いちご農園等を総合的・多様性を持って、観光を発展させる。（夏、冬でも集客できること）また、バリアフリーを充実させる（高齢者化）。
- ・ 地域交流の場づくり。
- ・ 地域住民生活の活性化。
- ・ カフェラボカフェ 100 軒づくり。

めざす
まちの姿

行きたい所に行けるまち
 お互い支え合えるまち
 誰もが何でも参加できるまち
 お酒!が飲めてみんなでワイワイできる、よりどころがあるまち

子供から高齢者、障害者も誰もが、自由に行きたいところに行けるための移動手段が確保されている。

誰もが、困っている時に困っていると言えて、困っている人がいると周りの人が気づける、心のよりどころが身近にあり、支え合い、人のつながりが活発なまちとなっている。

1. 重点的な取り組み

- ボランティアについて考えるきっかけ作り
 みんなで参加できるボランティア活動が大変重要。
- 生活に不便を感じない交通手段づくり
 高齢者になり運転免許返納が多くなっているが、誰でもどこでも行ける交通手段がこれからも大切。
- 多世代や同じ状況にある人が交流できる居場所を作る（カフェ・サロン・イベントなど）

2. 取り組みのアイデア

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 困っていることを発信できるように。嬉しいことでも共有できる。 ・ 子どもたちに自慢できる地域を育てていくこと。また、隣人同士の繋がりを、今一度考えると良い。 ・ 同じ状況におかれた者同士が交流できる。 ・ 障害者サロンの回数を増やし、郵便でご自宅に案内を送る。 ・ いろんな人が楽しめる、小さなイベントの開催。 ・ 誰でも気軽に立ち寄れる”カフェ”。 ・ ボランティア活動を改めて見直してもらいたい。特に若い世代の人に参加を期待する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分はどんなことで手助けできるか考える。 ・ 男女共同の世であり、人を（特に人権）ということを真剣に考えていく町づくり。 ・ 健康な人は、積極的に助ける側に動く。 ・ 福祉サービスが選択できる様、施設を増やすこと。 ・ 高齢者・障害者にタクシー券を配布、書留郵便で自宅に送る。 ・ 行きたいところに行けるように、バスの本数を増やす。 ・ 高齢者で免許証を返納した人が、買い物や病院に行きたい時に、これに協力できるような組織づくり。 ・ お互いにもっと便利に、気楽に、相互に手助けできるような取り組みを発展させていきたい。 |
|---|---|

めざす
まちの姿

みんなでふれ合える孤立しないまち

医療の充実したまち

食生活の充実、体力づくり、仲間づくりができるまち

食生活の充実、体力づくり、コミュニケーションをもとにした仲間づくりができる環境があり、子育て世代、高齢者世代の医療が充実し、生涯にわたってよりよく生きられるまちとなっている。

自主、自立、協働によって、子育て世代や高齢者が困り事で孤立することなく、お互いに支え合っている。

1. 重点的な取り組み

● 拠点病院の設置

精華町で精華国保病院以外に拠点となるような病院があれば、高齢化の予防や子どもたちの急病にも対応でき、安心できる。

● 子どもの遊具の他に、公園に体力づくりの器具の設置など

子ども以外も使える体力づくりの器具があれば、高齢者と子どもたちや子育て世代の交流の場にもなって、体力づくりにもなる。

● コミュニティを活動支援し活性化していく

自治会や子供会などがどんどん活性化していくことでコミュニティ活動が力をつけて、様々なつながりも増えていく。

2. 取り組みのアイデア

- ・ 地域の集会所などでの集いの場作り。
- ・ 雑談と相談をコミュニティ同士で行える環境作り。
- ・ 病気にかかった時に、お世話になれる隣付き合い作り。
- ・ 高齢者夫婦の日常的なふれ合いが大切である。病気、食生活、健康管理、近所付き合い、息子、嫁、孫。
- ・ 子ども、お年寄り（病気などの時の通院など）の送迎の手助け。
- ・ 自治会、消防団、老人会、子ども会、PTA（読み聞かせ）等、各団体の活性化 → 声かけ等で充実を図る。興味、関心を引く催し物をする → 仲間作り。
- ・ 生活環境に合ったコミュニティを提案される。

- ・ 自治会に入っていない方などにも声掛け。
- ・ コミュニティが作りやすい環境作り。
- ・ 身体を動かす → ポイント → 使用ができる仕組み作り。
- ・ 公園施設の充実。例えば「子どもの遊具の他に体力作りの機具の設置など」。
- ・ かかりつけ医、拠点病院、保健所との連携が大切である。
- ・ 訪問診療の充実。
- ・ 日常的に相談できる、身近な専門医の充実。かかりつけ医に、健康全般について相談できる。

めざす
まちの姿

体験を通じて心が豊かになるまち
町全体が家族なまち
子どもも大人も笑顔あふれ住みたいまち

子ども達に様々な体験をする機会が提供され、体験を通じて豊かな心が育まれ、高い自己肯定感を持って育っている。

町全体にやさしさ、あたたかさがあり、子どもから高齢者までみんなの笑顔があふれている。

1. 重点的な取り組み

● 農業生産体験から子育て支援

自然豊かな精華町の自然を活用した農業体験を通して、提供する側と利用する側とでWin-Winの関係ができるような子育て支援を実現させる。

● 学研都市の企業とのコラボレーションによって場を作り笑顔に

企業とコラボレーションすることで、子どもたちが未来の自分を想像できるような場を作っていく。

● SNSの活用、つながるアプリ

体験したいという思いに対して、情報が得られない、得にくい状態がある。その中で、どのような情報が欲しいかにも着目して、システムづくりを進めていく。

2. 取り組みのアイデア

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ カフェラボのように町の中心になれる会や、会社の方と町民をつなぐ会で交流する。 ・ 学研都市の会社に協力してもらい、会社のアピールになる、会社貢献事業とコラボした子育て世代への事業。 ・ 体験による価値創造。子どもたちが将来をイメージしやすくなる体験。→企業、学校の親密な交流。 ・ 「体験」けいはんな公園の活用（場の提供）、接点の提供が必要！！ ・ 四季折々のイベントを町民に呼びかけ交流。 ・ プレイパーク事業の展開。 ・ 大人が率先して笑顔になれる場の提供 ・ 農業生産体験から食育へ。 ・ 隣近所・地域の人と交流する場・イベントづくり。 ・ ウィンウィンの関係を守りながら行う体験事業（生活に必要なこと）※料理・もの作り。 ・ 子育て世代を中心にしながら参加する農業。それを支援してくれるシニア世代との交流。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 単発ではなくシリーズでのイベント・体験（複数回同じメンバーで集う）。 ・ 子育てをしていて、暴言、イライラ、無視、暴力を振るってしまう人、また、そのようなことをしてしまいそうになる人だけの集まりの会の設立。 ・ 大人が楽しんでいる姿を子どもに見せるサークル（合唱、サッカー、テニス）を小・中学校に行き一緒にする。 ・ 集会所を使って学童保育のような宿題をしたり、遊んだりできるような場（地域の手伝える大人が手伝う）。 ・ 一時的なレスパイト→ショートステイの充実。 ・ 普段からの子育て家庭と援助者との関係性の構築→何かあった時にすぐに援助できるような関係性を築いておく。 ・ 子育て家族や関係者（援助者）対象の研修会実施。 ・ 子育て家庭への援助→訪問相談。 ・ 援助者同士の情報共有。 |
|---|--|

めざす
まちの姿

自然を活かした環境のある町
育ってよかったまち
地域で見守るまち
自分たちが変えられるまち

精華町の豊かな自然とのふれあいや親と先生以外の大人、企業、町外の人等との関わりなど、色々な学びの機会が充実している。そのような環境で生まれ育った子ども達が、大人になって精華町で子育てをしている。

行政に頼るばかりでなく、自分たちでできることから少しずつ変えている。

1. 重点的な取り組み

● 子どもと学生が考えるせいか祭り

子どもと学生がこの町のために何ができるかを考えてもらうために、せいか祭りのプロジェクトとして、せいか祭りにもっと積極的に子どもが関わってもらう。子どもや学生にとっては経験にもなり、学校の中では学べないことを学べる機会になる。

● 誰もが情報をとれるシステムづくり

SNS や精華町のホームページなどを通して、子ども、学生、その親たちなど、みんなが情報を知れるようなまちにしていきたい。

● 特別な知識を持った人たちから子どもたちが学べる場所づくり

特別な知識を持った人たちから子どもたちが学んでいけば、子どもたちの視野も広がり、好きなものがその中にあれば自信につながる。

2. 取り組みのアイデア

- ・ 自分たちでできることはないか考える良い機会・経験を与える。
- ・ 地域のお祭りに子どもたちが、積極的に関わる。
- ・ 地域の中での多様な部活、クラブ活動（非スポーツ系）。
- ・ 部活はどうしてもスポーツ系が多いので、地域の中でいろんな活動をしている人とつながってもらって、多様な人生経験や多様な進路があると知らせてもらうことが必要。
- ・ もっと自由に遊べる場所（ボール遊びなど）。
- ・ 学研都市であるために小・中・高校生によるプログラム教育を支援する。
- ・ 相談窓口の設置。

- ・ 地域のSNSへの「入口」を作る。
- ・ SNSやインターネットが活発になる中で、自分に合ったものを探し出すのが難しい。ただただ充実させるのではなく、欲しいものに近づけるような仕組みが必要。
- ・ 小学生・中学生が精華町を知るために、説明会を定期的に開催しては。
- ・ 子育てが終わった主婦、主夫等から経験談を聞く場を開催しては。
- ・ 子育ての色々な問題についてSNS等で相談できるシステムを作ってはどうか。
- ・ 精華町について知る機会を増やす。
- ・ その土地のその場ならではの話を聞く。
- ・ 学び（教育以外）。
- ・ 田畑で稲や野菜を育て、せいか祭とコラボで収穫祭。

めざす
まちの姿

明るくて、やさしいまち
個性が集まり、つくりあげるまち
おせっかいなまち

子供会や自治会、青年団など組織的なつながりが充実し、子ども、若者、高齢者など様々な世代が個性を活かして、一つのもの・ことが作り上げられている。

隣近所の人にちょっと手伝ってほしいと気軽に言い合えて、助けあいがあるまちとなっている。

1. 重点的な取り組み

● 人やものをつなげるイベントづくり

フリーマーケットや物品貸出、人材派遣、情報交換などギブアンドテイクができる場所を作る。

● 人がつながる仕組みづくり

掲示板や回覧板などを使って、助けてほしいような人の情報を共有するなど、みんなで声を掛け合う、おせっかいをしていく。

● 気軽に立ち寄れる場所づくり

役場や駅近くの便利で人が集まる場所に、交流もできるような気軽に立ち寄れる場所があると良い。

2. 取り組みのアイデア

- ・ ものや情報交換ができるマーケットのようなイベントの開催は？フリマや物品の貸し出し、人材派遣などギブアンドテイクの情報交換。
- ・ 既存の組織の活動交流を行う。
- ・ 夏祭り、せいか祭りの中止を復活。
- ・ 既存の組織でできることから協働して実践。
- ・ 良いことをすればリスクを伴う。万が一こった時にカバーできる体制、バックアップ。
- ・ 掲示板や回覧板みたいなものを使って助けが必要な人・集いたい人などの情報を共有する（SNSは年配の世代にはなじまない？）。
- ・ みんなで声をかけあえる。

- ・ 子どもと老人との、結婚斡旋のような接点をつなぐ仕掛け→おせっかい。
- ・ 役場や駅近くにみんなで話せる拠点を作る。
- ・ 集会所を気軽に集まれる場所に。
- ・ 児童公園で子どもが遊んでいない。老人会などが見守る仕組みを作る→安全な遊び場所。
- ・ 人がよく集まる場所（役場、駅、ショッピングセンター）に無料の休憩所のような所を作る（おもちゃや本、新聞）などを置いて人々が交流できるような場所。
- ・ 室内キッズスペース。

めざす
地域の姿

花とつながり人とつながる明るいまち

自然とつながって、人ともつながりがあるというまち。

1. 重点的な取り組み

- **空き家やむくのきセンターなどを利用した高齢者×若者の居場所づくり**
高齢者がお茶などで団らん、学生が宿題をしている、教え合って勉強している、大人がリモートワークに使っているなど、小さい子から高齢者まで老若男女が気軽に寄れるようなスペースを空き家に作る。
- **子どもに自然と触れ合う経験を！**
小さい子どもに自然に触れてもらうイベントや農業体験などをしてもらい、小さい内から自然は素敵だなと、将来住む時にも残っていてほしいと思ってもらう。
- **“あいさつ”を通じた安心安全の街づくり**
将来的に子どもが自由にのびのびと過ごせるような事故などがない安全なまちをつくる。

2. 取り組みのアイデア

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然を使ってイベント？農業体験とか？？小さい頃から自然に触れる。 ・ 若い世帯がなぜ自治会に入りたがらないかの実態調査。 ・ いずれ自分も老いる事を自覚してもらう。 ・ 若い人（家族）が住み続ける町作り→その為に若い人の思いを聞くミーティングを行政がやる。ふるさと作り！！ ・ 自治会加入の促進。 ・ 自治会役員への負担集中をやめる。 ・ 高齢者と若い人との交流。 ・ 地域の中高生との交流。 ・ 中学・高校のイベントに高齢者が参加する→地域単位で。 ・ 自治会へ入るメリットのアピール。 ・ 空き家を片付けるだけで、空き家問題を解決し、さらに勉強の場やリモートワークの場ができ、まちおこしやまちを盛り上げるきっかけになる。 ・ 学生主体の〇〇。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ むくのきセンターの活用？ 参加したいイベント作り？ ・ 学生（若者）×高齢者。 ・ シェアできる仕組み 交流の場 老若男女わいわい。 ・ 団らんスペース、勉強スペース、仕事スペース。勉強を大人に教えてもらったり、学生は就職相談してみたり、お年寄りの話を聞いたたり、顔見知りが増える。縦も横も！ ・ （役場）町の方から新規に引っ越して来られた方への自治会加入アピール。 ・ 特産物センター（ここに行けば精華の物全部買える！みたいなの）。 ・ 精華に来たら飯はここ！ってお店欲しい（スイーツはいっぱいあるけど・・・）。 ・ 1年間のスタンプラリーを考え、単発ではなく継続させれば、高齢者や若者、子どもの親のつながりができる。 ・ あいさつを通じて、つながりを強化すれば、災害時などでも安心できるようなまちになる。 |
|--|--|

めざす
地域の姿

中心への復活

かつては中心だったが、今は衰退している地域なので、それを復活させる。

1. 重点的な取り組み

● インフラ

JR や近鉄で東西に分断している道路をもっと利用し、それで発展してないところを発展させる。また、新線や小さなバスなどを活用して、駅前に人が集まれる状況を作る。

● 土地活用

公共交通網を整備することで大型商業施設にも行きやすくなる。スタジアムのように集客できる公園を作ることで、新しい人たちも入ってくる。サイクリングターミナルやサイクリングの人たちのための宿泊施設などを作り、お金を落として貰うための仕組みを作る。

● 住環境

小型住宅だけでなく、10年後、20年後、30年後を見据えて、大型マンションも作っていく。小学校から大学までの一貫校を作り、新しい人の循環を生み出す。最終的には川西だけで10万人を目指す。

2. 取り組みのアイデア

- ・ 大規模住居、駅前確保。
- ・ 近鉄新線、東西大型道路。
- ・ くるりんバス、交通用の整備。
- ・ 計画的都市づくり。
- ・ 河川利用公園。
- ・ 田畑を町で買い取って公園を。
- ・ 大型、商業、工場、会社。
- ・ 休農地。
- ・ 地域、地区の再編成。

めざす
地域の姿

全世代が安心して暮らせるまち
共に考え、共につくり共に育てる自立的な地域／環境にやさしいまち
「ゆりかご」から「墓場」まで一生過ごせる地域

子どもから高齢者まで、つながりが常にある生き生きとしたまち。
交通環境も踏まえて、常に環境にやさしいまち。
自治会を中心に、まちを育てていくようなあり方を目指す。

1. 重点的な取り組み

● 自治会のオープン化

学生世代なども入れて、かつオープンにして、自治会というところをみんなが通える場所にする。

● 住宅の循環

行政とタイアップすることで年齢層が高くなった方に移っていただくようなマンションを作り、年齢層が高くなった方の引っ越しを促進し、引っ越し後の家には、必要な家族に入っていただくという仕組みを作る。

● 企業と地域が日常的につながる

学研都市には企業がたくさんあるので、企業と地域が日常的につながるイベントを開く。

2. 取り組みのアイデア

- ・ 子どもの減少、高齢者の増加に伴い、見守れる環境を整える。
- ・ 働く女性のために駅前にワンストップで全てが対応可能なセンターを建設し運営する。駐車場、託児所、スーパー、病院等。
- ・ 自治会運営を学生中心に任せる。
- ・ 自治会の集会場をよりオープンな場にする。（コワーキングスペース・ワークショップができる備品・リビングラボなどとして活用）
- ・ 防災ゲーム・フリーマーケット・物々交換→アイデア発信。
- ・ 代行業。
- ・ 巡回バス。
- ・ 緊急時、災害発生時の役割分担を決める。
- ・ 空家対策（旧村）で新しい住民が増えるように交流ができる、人と人が住みやすい町づくり。
- ・ 旧村の道路が抜け道にならない道路が整備されている。

- ・ ICT教育日本一。企業さんと繋がり、地域で育てる。
- ・ 自治会とボランティア、大学サークル等をマッチングで繋げる。
- ・ 自治会の備品をシェアリングする。
- ・ 姉妹地域をつくる。
- ・ オンラインTV会議システムを導入。
- ・ 自治会の活用。
- ・ 住民交流の場。
- ・ 緑化推進→緑化基金やゴミ拾いをして、返礼品に替えられる。
- ・ ～住民を育てる～ 住民参加の機会創出→イベント。
- ・ 現役世代・大卒前・シニア世代・定年前後にあわせた講座。
- ・ 精華台の住宅を借りたい人に、行政（役場）から介入、年齢に（家族構成）合わせた住環境を提供していく。

めざす
地域の姿

企業との共存・共生するまち／人とのつながりがあるあたたかいまち
いろいろな世代の人やいろいろな人とコミュニケーションを取れる地区にする。

1. 重点的な取り組み

● 企業を巻き込んだ交流イベントの開催

学研都市であるところをアピール、もしくは企業と一緒にやっていくために、企業を巻き込んだ交流イベントを開催する。

● 新旧地域での交流促進

旧地区の東畑では人口減・高齢化が著しい。また、新旧地区同士の交流があまりなく、昔からある神社やお寺を知らないことが多い。「地域力の強化」が重要であると同時に、新旧地区お互いを知れるような交流促進をやっていく。

● IT技術を活用したコミュニケーション

企業の知恵を借り、IT技術を使ってコミュニケーションを取る。タオルかけ運動（一斉清掃の時に安否確認で家の前にタオルをかける）等も活用して、ITが苦手な人でも地域のつながりができるようにする。

2. 取り組みのアイデア

- ・ 地域のコミュニケーションの手段をWEB、通信機器の活用により改善する。
- ・ ITを使う、アプリ、SNS発信。
- ・ 自治会から支援金の支給。
- ・ 適度な行事、レクリエーションを適度な負担なく実施することで人と人との繋がりを深める。自治会運営負担の軽減。
- ・ 小中学校を活用した住民等交流の場。
- ・ 清掃活動（月1回自治会として実施）←街並みを守る→外周道路の整備。
- ・ 一斉清掃をしてみる。
- ・ 掃除ボランティアグループ（？）。
- ・ 道路の清掃や整備を住民の手で。
- ・ 見守りがあるといいなあ。
- ・ 自治会をやめないでいい仕組みづくりをする
- ・ タオル運動を他の町内でもやってみる。
- ・ 交通システムの革新。使えるバスが1台あれば、運転する人は地域にもいる。
- ・ 地域の開発道路の整備。
- ・ 見えにくい場所（道路）をなくす。
- ・ 歩行者優先の徹底・住宅街の道路（交差点）にスピードを和らげる設備の設置。
- ・ 「防災・防犯」をキーワードに、住民、企業、学級、行政の取り組み。
- ・ 防犯カメラの設置。
- ・ オンライン高校を呼ぶ。

- ・ 空き地に季節の花を植える。
- ・ 光台に住む外国人向けのイベント。
- ・ 町の魅力を発信する。
- ・ オンラインコミュニティ等で地元の交流を活性化。
- ・ 企業へのアプローチ。
- ・ 企業にはたらきかけてみる。
- ・ 交流イベントの充実（科学、文化、イベント）。
- ・ イベントの実施・自治会の活性化。
- ・ 企業との交流イベント。
- ・ 企業と住民が交流できるイベント開催。
- ・ 東光地区再発見ツアー（ふるさと案内人さんの協力）。
- ・ 町内で案内をしてみる。東畑→光台 or 町全体。
- ・ 東畑地区との交流（農業体験、祭の共催）。
- ・ 旧地区東畑では人口減、高齢化が著しい。過疎化、高齢化の問題は他地区でも共通の課題。総合計画に過疎化・高齢化対策を盛り込むことが必要では。
- ・ 高齢者の活用、高齢者の中でも動ける人がいる。それをまとめ、活動する。リーダーの育成や行政の支援。
- ・ 空き家・古民家の活用、住みたいという若い方もいる。活用促進策が必要。

めざす
地域の姿

人と人とのつながりによる安心安全で美しいまち

コミュニティや人とのつながりを大切にするこゝで、防災防犯で安心安全なまちにもなり、住環境という意味では美しいまちを保つことができる。

1. 重点的な取り組み

- **いつでも、誰でも参加できるイベントや居場所作り**
いつでも誰でも参加できるようなイベントであるとか居場所などを作る。集会所はいつでも鍵が閉まっているので、いつ行っても誰かいて、いつでも利用できるようにする。
- **行政（役場）と地域との意思疎通ができる仕組み・場**
住民だけで何とかしようと思っても進まないことがあるので、行政にもサポートしてもらい、お互いに協力し合い、いろんな人と話をして、調整ができるような仕組みを作る。

2. 取り組みのアイデア

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政・警察・地域等の連携の強化。 ・ ハイテクでまちおこし（企業と住民のコラボ）。 ・ 自治会・ボランティア。活動にハイテクを。 ・ 「めざす地域の姿」担い手養成大学（みんなで勉強し実践する）。 ・ 学研立地企業の研究者たちと住民との交流会（ワインでも頂きながら）。 ・ けいはんなプラザ（ホテル）をもっといいホテルに。 ・ 町の定住促進（補助金等）。 ・ お互いが無理強いしない。 ・ 精華町の花（バラ）を活用してほしい。 ・ みんなが気軽に集まり利用できるホール（防災保健子育て兼ねて）。 ・ 住民参加の食のイベント企画（山形のいも煮とか）。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ せいかカフェ・ラボのような機会を通して、今まで知りえなかった人たちとお互いに話をすれば、問題意識と同時に、解決のアイデアも生まれ、それをボトムアップ的に上に持っていける仕組みがあれば、ちょっと良いまちになったかなという満足感が得られる。 ・ アイデアも反映されなければ意味がないので、行政にちょっと助けてもらって、今までトップダウンでできていたものをボトムアップで反映させていく。 ・ 余分なゴミや樹木の枝の撤去。 ・ いつでも誰でも参加できるまちづくりワークショップ開催。 ・ 色々なスポーツ、健康づくりのイベント開催。 ・ サロンやカフェなど居場所づくり（たくさんあればいい）。 ・ いろんなレベルで相互理解できるようなコミュニケーションの場を積極的に作る。 |
|---|---|

めざす
地域の姿

山田川駅交通拠点の向上／川と桜でつなぐまち／多世代が集まりたいまち
桜の木の多い山田川があり、今あるものを活用して人を呼び込む。

1. 重点的な取り組み

● 山田川桜守・盛活動

樹齢 40 歳を超えると手がかかる桜の木をみんなで守ることで、いろんな世代が集まって、外からも人が集まる。

● 多世代が集まりたい・歩きたくなるまち

子育てを終えた世代の方もいるので、そういった人たちも桜や景観を中心に集まっていくようにする。

● 農業コミュニティ・豊かな田の活用

休耕地や耕作放棄地などを中心に外から人を呼び、また、それらを見に行くコースを作る。

2. 取り組みのアイデア

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通しか止まらない＝乗降客が少ない＝商業発展しにくい。 ・ 再開発の遅れ・空き店舗・老朽化したもの。 ・ 田畑が駅から見える。 ・ 休耕地・農村の担い手不足。 ・ 歩いて（わざわざ）訪ねるまち。 ・ のどかで空気がいい。 ・ 農業体験ができる。 ・ 地域を知る活動は防災の一環。 ・ 1人でも多くの人に参加してもらえるしくみづくり。 ・ 3世代・4世代が住み誇れる山田荘。 ・ 山田川さくらもり（守・盛）活動…桜の木見守り活動。 ・ 桜と防災のマップづくり。 ・ 地域桜盛りアプリの開発…防災・孤立情報にも活かす。 ・ 桜は食材…葉・実・花でお土産・特産・レシピ。 ・ 山田川沿いの整備。 ・ 休憩処・あずまや。 ・ 給水スポット・撮影スポット。 ・ ベビーカーや車いすも通りやすい。 ・ 移動カフェ・キッチンカー。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 安価な駐車場整備でパーク・アンド・ライド始発点に。広域交通軸 163 号とつながる地域特性を生かす。 ・ 駅周辺の有効利用。 ・ レンタサイクル、シャワー、ドッグラン、サイクリスト用ホテル、ペット OK なお店・宿。 ・ 農地見学会、農業体験・農業塾、農地カフェ・地元産旬の食材・オーベルジュ。 ・ 近鉄さんとコラボ・木津川市との協力。 ・ 今あるものをよりよいものに。 ・ あるものの活性化。 ・ ハイキングコースで地域探索。 ・ 拠点づくり。 ・ 互いの連絡ツール。 ・ 山田川を中心としたコミュニティづくり。 ・ 地域のシンボル桜を。 ・ 旧村・新興地・駅をつなげる。 ・ 地域の良さを発信。 ・ 第3世代への補助。 ・ 交通でつながるようにオンデマンドバス。 ・ 空き地の有効活用。 ・ 桜の維持管理。 ・ 沿道の桜の整備。 ・ 桜を活用した地域活性。 |
|--|---|

(山田荘小学校グループの参加者のみなさんが独自で作っていただいた資料です。)



目指す山田荘小地域の姿と実現に向けて

- 山田川駅から始まる交流
- 川と桜でつなぐまち
- 多世代が集まり、歩きたいまち



駅前に田畑が広がる山田川駅・・・

- 普通しか止まらない = 乗降客が少ない = 商業発展しにくい
 - 再開発の遅れ・空き店舗・老朽化した建物
 - 田畑が駅から見える・
 - 休耕地・農村の担い手不足
- 歩いて（わざわざ）訪ねるまち
 - のどかで空気がいい
 - 農業体験ができる

3

川と桜でつながるまち

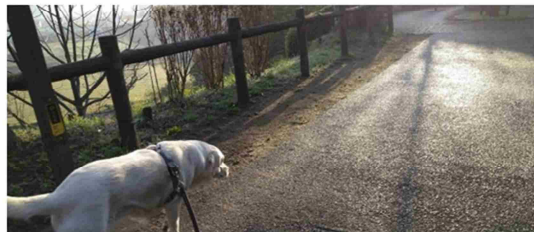
- 地域を知る活動は防災の一環に
 - 1人でも多くの人に参加してもらえるしくみづくり
 - 3世代・4世代が住み誇れる山田荘
-
- 山田川桜もり（守り、盛り）活動・・・桜の木見守り活動
 - 桜と防災のマップづくり
 - 地域桜盛りアプリの開発・防災・孤立情報にも生かす
 - 桜は食材・葉・実・花でお土産・特産・レシピ



4

多世代が集まり、歩きたくなるまち

- 山田川沿いの整備
- 休憩処・あずまや
- 給水スポット・撮影スポット
- ベビーカーや車いすも通りやすい
- 移動カフェ・キッチンカー



5

山田川駅から始まる交流

- 安価な駐車場整備でパーク・アンド・ライド始発点に。広域交通軸163号とつながる地域特性を生かす
- レンタサイクル
- シャワー
- ドッグラン
- サイクリスト用ホテル
- ペットOKなお店・宿

- 農地見学会
- 農業体験・農業塾
- 農家カフェ・地元産旬の食材・オーベルジュ
- 近鉄さんとコラボ・木津川市との協力



6

目指す山田荘小地域の実現に向けて

- 山田川桜守・盛活動
- 多世代が集まりたい・歩きたくなるまち
- 農業コミュニティ・豊かな田の活用

